

## B. 各支部から

### 岩手県支部の最近の活動状況

岩手県小児保健協会支部長  
岩手医科大学小児科学講座  
千 田 勝 一

#### I. 歴 史

岩手県小児保健協会は、「小児保健に関する研究を通して、地域小児保健の向上を図り、小児の健康増進を期する」ことを目的として1960年に発足し、岩手医科大学の若生宏教授が会長に就任された。その後、教授退任に伴い、会長は1981年から藤原哲郎教授、1997年から千田勝一教授が務めている。2001年から岩手県小児保健学会と改名した。この間、日本小児保健学会が1971年（第18回、若生宏会頭）と2004年（第51回、千田勝一会頭）に盛岡市で開催された。

#### II. 会 員

現在の会員数は230人で、主な会員は小児科医、歯科医、保健師、助産師、看護師、教育職員、公務員、歯科衛生士、栄養士などで構成されている。

#### III. 活 動 状 況

##### 1. 学術集会

学術集会は毎年2月の第1土曜日に開催している。最近の演題は各職種から万遍なく研究内容や取り組みが出されており、活発な討論がなされている。

10月の「こども健康週間」には、日本小児科学会岩手地方会と岩手県小児科医会とともに「こどもの健康フォーラム」を共催している。

##### 2. 若生賞

若生賞は若生教授の基金によって1981年に設立されたものである。岩手県において小児保健の発展・推進に顕著にして地道な活動を行った個人または団体を対象に募集し、選考のうえ、学術集会の折りに本賞を授与している。これまでに26人と4団体が受賞した。

##### 3. 連絡協議会

日本小児科医会副会長を務められていた岩手県小児科医会の小川英治会長が音頭を取り、日本小児科連絡協議会（三者協）の岩手版が2006年に発足した。年に2回開催し、小児科関連の諸問題の情報を共有して、内容によっては地域担当者への要望や問題解決をする場となっている。地域に関連する話題が多いため、岩手県医師会理事、盛岡市の各小児救急輪番病院代表も構成メンバーとしている。

#### IV. 今後の課題

今後の課題と考えているのは、岩手県が導入したタンデムマス新生児マス・スクリーニングの啓発や、子宮頸がん等の予防接種の促進、発達障がい等の早期発見と対応、事故・いじめ・感染症への対策、障がい児・家族への支援などであり、地域小児保健関係者の協力を得て、これらの解決に向けた努力をしていきたい。